

2016年3月 第55回（最終回）野田村仮設住宅訪問報告

2016年3月19日
報告者：福田雅祥（函館美原）

実施日 2016年3月18日（金）

参加者 10名 鮫教会3名、八戸教会1名、青森教会2名、釧路教会1名、札幌新生教会1名、苫小牧教会1名、函館美原教会1名

持参品 お菓子（鮫教会、八戸教会、青森教会、釧路教会から提供）、コーヒー（苫小牧教会から提供）、鉢植えのお花（札幌教会から提供）、タオル（八戸教会から提供）、お茶など

去る3月18日（金）、野田村仮設住宅訪問が行われました。いつものように午前は野田中仮設で、午後は泉沢仮設で、それぞれ茶話会を行いました。また、門前仮設を含む全世帯にお菓子、タオル、鉢植えのお花などをお届けしました。

野田村仮設住宅訪問は、2011年8月から月一度のペースで続けられ、今回で55回目となります。そして、今回をもって、仮設住宅の集会所での茶話会は最後になりました。野田村では、最も規模の大きな城内高台宅地に建築されている住宅がほとんど完成し、多くの方々が来月には



そこへと移られます。その後も仮設住宅には20世帯弱が残られますが、それらの世帯は自立再建をしている方々で、家が完成し次第、順次仮設住宅を出られることとなります。そこで、野田村では、仮設住宅でのボランティア受け入れを、今月で終了することになり、私たちの活動もひとつの区切りを迎えました。

この活動を始めた当初から、仮設住宅の閉鎖まで続けることを目標にしてきましたが、それを実質的に果たすことができました。それは、拠点教会である鮫教会と八戸教会がささげてくださった多くの犠牲と、毎回、参加者を派遣し続けた青森・岩手チームと北海道連合の諸教会の協力、さらには多

くの物資を送り届け、祈ってくださった全国の諸教会・伝道所の協力の賜物だと強く感じています。また、野田村社会福祉協議会の担当者の方々の理解と支えも大きな力でした。何よりも主の伴いの中で、いつも励まされ、導かれ、すべてが備えられてきたことを、心から感謝したいと思います。

5年の間に築かれた野田村の皆さんとのつながりは、私たちの想像を超える深さとなり、本当に名残惜しい気持ちいっぱい仮設住宅を後にしました。新しく始まる生活には、期待と共に大きな不安も伴っていることを、ひしひしと感じます。これからも祈りに覚え、今後の展開を見据えながら、なすべきことがあれば新たなかたちで関わらせていただきたいと思います。

